

くがつとおか  
すがわらのみちぎね  
九月十日（菅原道真）

きよねん  
このんや  
せいりよう  
せいのん  
去年の今夜 清涼に侍す

しゅうし  
しへん  
ひと  
だんちよう  
秋思の詩篇 独り断腸

おんし  
ぎよい  
いま  
このん  
おんし  
ぎよい  
いま  
このん  
恩賜の御衣 今此に在り

ほうじ  
まいにち  
よこう  
はい  
捧持して 毎日 余香を 挿す

解説 流謫の地 大宰府での作で、去年の九月十日と今日の九月十日とを比べ、その差異の大きさを詠っている。深い悲しみと天皇の恩顧への感謝と忠誠心がこもっている。

語釈 \*清涼 清涼殿。\*秋思 道真は去年、清涼殿で「秋思」という詩を詠んだ。

\*恩賜御衣 天皇から賜った御衣。\*捧持 ほうじ。ささげ持つ。\*余香 残り香。

通釈 去年の今夜は清涼殿の宴に出席し、秋思」という題で私が詩を詠んだ。

腸も避けそうなほど悲しみに満ちた詩であった。

あの時、いただいた御衣は、今もここにある。

毎日捧げもつては、ひたすら尊い御恩を心に刻んでいる。